



作家・ドイツ在住 川口マーン恵美

世界中のファンが集結

ドイツのバイロイトと聞けば、音楽ファンなら、まず「リヒャルト・ワーグナー!」。人口7.4万人余りの落ち着いた小都市だが、ワーグナーが自分のオペラを上演するために建設した祝祭劇場があり、毎年、夏の1カ月間、バイロイト音楽祭が開かれる。演目はもちろん、ワーグナーのオペラのみ。

音楽祭の初日には、ヨーロッパの政治家やスターたちが勢ぞろいする他、世界中の「ワグネリアン」たちも集結(ワーグナーには熱狂的なファンがいる)。とにかく敷居の高い音楽祭で、チケットは世界一取りにくいと言われ、何年も前から予約するほどだった。ところが、コロナで中止となった2020年を境に、突然、直前でもチケット入手可という異常事態が起こり、おかげで私も昨年、聴くことができた。

いずれにせよ、バイロイトでは多くの通りの名前がワーグナーにちなみ、古いレストランは皆、“ワーグナーの訪れた店”がうたい文句。あちこちにワーグナーの肖像画や胸像があり、若干、食傷気味にはなる。

ワーグナーは素晴らしい音楽家ではあったものの、浪費癖あり、虚言癖あり、借金は踏み倒すわ、利用できる人は限りなく利用するわと、人間的にはかなり問題があった。その彼の2人目の妻がコジマ。有名なピアニスト、フランツ・リストの娘で、こちらもワーグナーに負けないほどの才能の持ち主。知り合ったときは2人とも既婚者だったが、まれに見る2つの才能が出

会って火を吹いたのだから、もう、情熱の炎は消しようがなかった。ただ、不思議なのは、キリスト教的モラルの厳しい19世紀の話だというのに、コジマは夫(有名な指揮者であるハンス・フォン・ビューロー)と、自分より24歳も年上のワーグナーの間を行ったり来たりしながら、ワーグナーの子どもを2人も産む。しかも、夫との間にも2人の子どもがいたのだから、はっきり言って手品のような話だった。

いずれにせよ、この特大不倫に周りが気付いていなかったはずはなく、ある時、その良からぬ噂がバイエルン国王の耳に入った。するとコジマは、珠玉の嘘八百を並べた手紙を書いて、国王の不審の念を見事に粉碎することまでやってのけた。国王は当時、ワーグナーの唯一最大のスポンサーだったから、コジマのこの作戦が失敗していたなら、バイロイトの祝祭劇場の存在はなかっただろう。とにかく、こちらへんの話は、どの伝記を読んでもけっこう怖い。

ちなみに、ワーグナーの妻が亡くなり、ようやくコジマも離婚。念願かなってワーグナーと正式に結ばれ、生まれたのがジークフリート。そう、これが、ワーグナーの代表作である『リング』4部作の中の第2部のタイトルとなった。

町を挙げてのイベント

ワーグナーはさておき、現在のバイロイトに話を戻す。この町はバイエルン州に属し、バイエルンといえばビールだ。ドイツのビール醸造所の42%が同州に集中しており、その数なんと631社(2021年)だとか。州都のミュンヘン